仏教資料としての旧唐書経藉志

春　日　礼　智

大唐一代の歴史を記した史書に、旧唐書と新唐書とがある。旧唐書は、五代後晋の出帝の開運二年（九四五）に、劉昫（八八七―九四六）等が、奉勅、撰したもので、本紀二十、志三十、列伝一百五十からでき上っている。新唐書は、宋代、欧陽修、宋祁等が、奉勅、撰したものである。旧唐書は資料粗撰、原文をそのまま忠実に紹介した点で勝っているが、唐末の記事が貧弱である。これに対し、新唐書は、行文流麗簡潔、事実博載である。これにより、新唐書が出てから、旧唐書は多く用いられなくなり、清朝に及んでいるが、清代、これが、再評価され、二書併用、今日に至っていることは、周知のとおりである。四庫全書総目提要巻四十六に、次の如く述べている。

自宋嘉祐後、欧陽修、宋祁等、重撰新書。此書遂廃。然、其本、流伝不絶。儒者、表昫等之長、以、攻修祁之短者、亦不絶。今観所述、大抵、長慶以前、本紀惟書大事。簡而有体。列伝叙述詳明。瞻而不穢。頗能存班范之旧法。長慶以後、本紀則詩話書序婚状獄詞、委悉具書、語多支蔓。

旧唐書経藉志は、隋書経藉志の延長である。且つ、これと重復しているものも、少なくない。次に、経藉志は図書目録、然も、善書目録である。旧唐書巻四十六に、

夫、経藉者、開物成務、垂教作程。聖哲之能事、帝王之達典。

というものである。旧唐書経藉志は、六朝隋唐の文化を物語り、重要な図書目録である。又、その中に収録されている仏教資料は、一応、中国文化の最高峰を行くものとして、洗練され、評価されたものと、見てよい。そして、それは又、中国仏教資料を評価する、重要なバロメーターである。以下、私の採集した仏教関係の図書目録を列記し、学者の座右に供する次第である。

旧唐書巻四十六経藉上

古今楽録十三巻　釈智匠撰

文字釈訓三十巻　釈宝誌撰

雑字書八巻　釈正度作

漢書正義三十巻　釈務静撰
高僧伝六巻　虞孝敬撰
名僧伝三十巻　釈宝唱撰
比丘尼伝四巻　釈宝唱撰
高僧伝十四巻　釈恵皎撰
続高僧伝二十巻　釈道宣撰　続高僧伝三十巻　釈道宣撰
西域求法高僧伝二巻　釈義浄撰
名僧録十五巻　裴子野撰
薩婆多部伝四巻　釈僧佑撰
草堂法師伝一巻　陶弘景撰　又一巻　蕭理撰
稠禅師伝一巻
幽明録三十巻　劉義慶撰
斉諧記七巻　東陽無疑撰
続斉諧記一巻　昊均撰
述異記十巻　祖冲之撰
感応伝八巻　王延秀撰
冥祥記十巻　王琰撰　続冥祥記十一巻　王曼頴撰
撃応験記一巻　陸果撰
因果記十巻　劉泳撰
近異録二巻　劉質撰
寃魂志三巻　顔之推撰　集霊記十五巻　顔之推撰
旌異記十五巻　侯君素撰
冥報記二巻　唐臨撰
玉璽譜一巻　僧約貞撰
洛陽伽藍記五巻　楊衒之撰
四海百川水記一巻　釈道安撰
外国伝一巻　釈智猛撰
歴国伝二巻　釈法益撰
魏国巳西十一国事一巻　宋雲撰
交州巳来外国伝一巻
中天竺国行記十巻　王玄策撰

旧唐巻四十七経藉下

老子二巻　鳩摩羅什注
老子二巻　釈恵厳注
老子二巻　釈義盈注
老子玄譜一巻　劉道人撰
老子道徳経義疏四巻　顧歆撰
牟子二巻　李融撰
浄住子二十巻　蕭子良撰　王融頌
統略浄住子二巻　釈道宣撰
法苑十五巻　釈僧祐撰
内典博要三十巻　虞孝景撰
真言要集十巻　釈賢明撰
歴代三宝記三巻

修多羅法門二十卷　郭瑜撰
集古今仏道論衡四卷　釈道宣撰
六趣論六卷　楊上善撰
十門弁惑論二卷　釈復礼志
経論纂要十卷　駱子義撰
通惑決義録二卷　釈道宣撰
夷夏論二卷　顧歡撰
笑道論三卷　甄鸞撰
斉三教論七卷　衛元嵩撰
弁正論八卷　釈法琳撰　破邪論三卷　釈法琳撰
三教詮衡十卷　楊上善撰
甄正論三卷　杜乂撰
心鏡論十卷　李思慎撰
崇正論六卷　釈彦悰撰
兼名苑十卷　釈遠年撰
金楼子十卷　梁元帝撰
大唐甲子元辰暦一卷　瞿曇撰
七曜暦算二卷　甄鸞撰　暦術一卷　甄鸞撰
九章算経九卷　甄鸞撰　五曹算経五卷　甄鸞撰
孫子算経三卷　甄鸞撰注　張丘建算経一卷　甄鸞撰
夏侯陽算経三卷　甄鸞注　数術記遺一卷　徐岳撰　甄鸞注
三等数一卷　董泉撰　甄鸞注　五曹算経三卷　甄鸞撰
三教珠英幷目一千三百一十三卷　張昌宗等撰
諸薬異名十卷　釈行智撰
調気方一卷　釈鸞撰
僧深集方三十卷　釈僧深撰
〔楚詞音〕又一卷　釈道騫撰
梁武帝集十卷
金輪集十卷　天后撰
斉竟陵王集三十卷
沙門曇諦集六卷
沙門恵遠集十五卷
沙門恵琳集五卷
沙門曇瑗集六卷
沙門亡名集十卷
沙門霊裕集二卷
沙門支遁集十卷
文選音義十卷　釈道淹撰
弘明集十四卷　釈僧祐撰
広弘明集三十卷　釈道宣撰
陶神論五卷　釈霊祐撰
文心雕竜十卷　劉勰撰
続古今詩苑英華二十卷　釈恵静撰

（元大谷大学教授・文博）